

## グローバル人材育成プログラムを通して

澤田 悟  
Satoru SAWADA  
機械システム工学科 3年

### 1. はじめに

今回、私は8/17～9/4（2017年）の間、グローバル人材育成プログラムに参加した。

はじめに日程について表1を用いて紹介する。

私たちは8/17に日本を出発し、アメリカには現地の時間で同日8/17に到着した。その後、その日を含めた二日間を通してサンフランシスコならびに周辺の企業見学を行った。三日目は午前中に現地で働く日本人三名の講演に参加し、その後それぞれのホームステイ先に向かい、解散した。

そして、休日を経て8/21から9/1までの平日10日間、私はInnovation Matrix, Incにてインターンとしてお世話になった。

インターンとしての実習終了後は土曜を挟み、9/3の朝にサンフランシスコを出発、日本には日本時間における9/4に到着した。

表1 プログラム日程について

8/17	米入国／サンフランシスコ観光
8/18	サンフランシスコ観光
8/19	キャリアセミナー／ホームステイ開始
8/21	インターン初日
9/1	インターン最終日
9/3	米出発
9/4	日本帰国

### 2. 参加目的

将来エンジニアとして海外で働くにあたって今の自分に何が足りないのか。また、今から何をしなければならないのか。それらを考え、できる限りその答えを見つけることを目的に今回私はグローバル人

材育成プログラムに参加した。

### 3. インターンシップ

先ほども紹介したように私は8/21～9/1の間の平日10日間、Innovation Matrix, Incにてインターンとしてお世話になった。

#### 3.1 実習先企業概要

ここではInnovation Matrix, Incについて紹介する。この会社の業務は多岐にわたるが、主にロボットの卸売業を行っている会社である。取り扱っているロボットは主に物流ロボットで、システムインテグレータという物流のシステム等を構築する会社と連携して効率的なオートメーションシステムを提供している。その他にもテレプレゼンスという遠く離れた二つの存在のコミュニケーションを支えるロボット、主に大学等に提供している教育用ロボットなど様々なロボットを扱っている。また業務としては他にもInnovation Matrix, Inc CEO 大永氏の豊富な経験を活かしたコンサルティングサービスというビジネスアドバイスの提供、ソフトウェアの面での製品開発など様々な業務を扱っている。

#### 3.2 実習内容

ここではインターン期間中に行った実習の内容について紹介する。

今回行った実習は主に次の三つである。

- ①Freight 100（物流ロボットの種類）に関するマニュアルの日本語訳レビューとその埋め込み
- ②読書感想文
- ③各ミーティングの参加

#### 3.3 実習における学び

##### ・実習内容①について

日本語訳レビューを行う中で英語能力と共に日本語の能力が問われた。

このことから、グローバルに働く上で、やはり母国の人間・会社を相手に働くことが有益となるた

め、自分の母国の言語を含む知識が求められるということを学んだ。

#### ・実習内容②について

対象の本を読む中でシリコンバレーでの働き方について Innovation Matrix, Inc CEO である大永氏より様々なことを教えていただいた。まず、シリコンバレーでは転職に寛容な環境が整っているそうだ。そしてその環境のために有能な人材が様々な企業に転職し、それを繰り返すことで平均的にシリコンバレー周辺の企業が発展するという、それだけでなく、転職を繰り返すことでその人自身の能力の向上・経験の増強にもつながっている。こうした環境によって育て上げられた有能な人材をならって、海外企業がシリコンバレーに進出しているそうだ。このことから転職に寛容な働き方のメリット、企業の発展における働き方の重要性、経験の数の重要性について学んだ。

さらに対象の本の中から良質な人間ネットワークの形成の必要性についても学んだ。本の中でその著者は様々な人に積極的にコンタクトを取っていた。そして色々な人と関係していく中で互いに影響し合い、新しい経験・知識を獲得していた。また、新しい環境に赴いたことも彼を成長させた要素の一つだと感じた。このことからより高度な知識・経験を積み重ねる上で、積極的に自分が興味を持った様々な人・地域と積極的に関わる大切さを学んだ。

#### ・実習内容③について

様々な企業との会議に参加させていただいた中で、エンジニアとしてのビジネスに対する知識・能力の重要性を感じた。製品を開発する上でそのニーズとそれに応じた投資額を考慮しなければならないわけだがこの製品開発の効率性には開発者側のビジネス能力が大きく依存してくる。また、自身の製品を紹介する際にその製品の将来性、自身のビジネスモデルなどを語る上でいかに説得力のある紹介ができるかが信頼につながっているのだと感じた。実習期間中の他社とのミーティングでもやはり、質問の的はそういった将来性ならびにビジネスモデルなど

であった。そういった場合にもやはりエンジニア側のビジネス能力が求められるのだと思った。

このようにエンジニアのビジネス能力の重要性を各ミーティングの中で感じ、学んだ。

## 4. おわりに

### 4.1 グローバル人材について

今回の実習の中で強く感じたのはグローバル人材とはいかに自分の経験・知識・能力を向上させることができるか考えられる人材であるということだ。そして、その能力を国際的に発揮することのできる人材のことを指すのだと思う。もちろん、異なる文化・習慣を受け入れることのできる寛容性などグローバル人材に対して様々なことが考えられるが、今回私が感じたグローバル人材とはこういうことだった。

グローバルに働く上で最も重要視されるのは個人の能力・経験だった。そのためグローバルな視点から効率よく知識・経験を積むことのできる環境・方法を見つけ出し、積極的にそこに飛び出していくことが求められるのだと分かった。

### 4.2 今後の課題

まず、自分の思うグローバル人材になるために、グローバルな視点で見る働き方・働く環境についての知識・経験を積み重ねたいと思う。また、エンジニアとして十分なビジネス能力の知識・経験も積み重ねていきたい。そして全体的な能力向上のために積極的に経験できる機会を利用し、その中で良質な人間ネットワークを作っていくことを今後の課題とする。

### 4.3 謝辞

今回、このプログラムに関係したすべての方々へ心より感謝申し上げます。特に、インターンとして受け入れてくださった Innovation Matrix, Inc には相手先の企業に対する失礼を覚悟で様々なミーティングに参加させていただくなど大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。